

ヤ行

ヤ		
若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
ヤエジモンジ	ヤエジュウモンジ	雁字搦め(がんにがらめ)に縛る。八重十字字(やえじゅうもんじ)。無二無三(むにむさん=脇目もふらず, ひたすらに)と同じような形容にも使われた。
ヤガ	イヤカ	いやか
ヤセツピ	ヤセツポチ	瘦(や)せっぽち, 瘦せた人。*その人を嘲う(あざわらう)ときに使う。
ヤダ	イヤダ	嫌だ。女兒が複数いる時は口を揃えて「ヤアダ」と言う。
ヤダオラ ヤダヨオラ	イヤダオレハ	俺はいやだ。断る場合と, 単に嫌だと言う場合とがある。後者の意味では女性が使った。
ヤダクテ	イヤダ	嫌だ。「~クテ」はその状態が継続する場合の言葉。
ヤダッペヨ	イヤダロウヨ	嫌だろうよ。*「ペ」は「ベシ」の変化。
ヤダラツゲ	ヤタラツケ	やたら漬け。茄子や胡瓜などの野菜を刻み, 紫蘇(しそ)の実と混ぜて漬けた漬物。*本来は野菜を刻んで混ぜ, 味噌で漬けた物。当地では塩を使っている。
ヤヅ	ヤヅ	谷津(やつ), 低いところ, 谷, 山間の田。
ヤッカム	ネタム	妬む(ねたむ)。「AIにこれ見せダラ, ヤッカ ンチャツタツケエ(AIにこれを見せたら妬んで しまったんだ)」
ヤッキモツキ ヤギモギ	ヤキモキ	気を揉む(もむ)状態。「そんなにヤッキモツ キシネダツテ, 来るモノハ来るヨ(そんなに やきもきしなくても, 来るものは来るよ)」
ヤツケエ	ヤワラカイ	柔らかい, 軟らかい。「ヤッコエ」とも言う。
ヤツケエ	ヤツカイ	厄介(やっかい=面倒なこと, 迷惑なこと)。 *人からお世話になったときにお礼として, 「どうもご厄介になりました」などと言う。
ヤッタエ	ヤロウ	やろう。やるという希望を持たせる。「ナズヤ スミニナツタラ, ミンナシテ, オラエデ盆踊り ヤッタエ(夏休みになったら, 俺の家でみんな で盆踊りをやろう)」
ヤッチマエ ヤッチメエ	ヤツテシマエ	やっしまえ。「ハヤグ, ヤッチメエ(早くやっ てしまえ)」*早口になると「ハヤグ, ヤッ チャエ」となる。
ヤッペ	ヤロウ	やろう。「エネ, アガルンダガラ, 明日っから 稲刈りヤッペエ(稲が実ったから, 明日から 稲刈りをやろう)」*「ペ」は語る意志によっ てアクセントや発音が変わる。
ヤナアサツテ	ヤノアサツテ	やのあさって, 明明後日(みょうみょうごに ち), 明後日(みょうごにち=あさって)の次 の日。*つまり, 今日から見て3日後。東京 では3日後の「やのあさって」と, 4日後の「し あさって」が入れ替わっている。

ヤマオゴ	テンサン(ヤママユ)	天蚕(てんさん), 野生の蚕。樫や栗の木などにいる。蚕は昔は「コ」と言い、金に変わるありがたい虫だから「オコサマ」と呼んだ。山の「オコサマ」だから「ヤマオゴ」。この糸は釣り糸として珍重された。
ヤモ	...	田の中において刺されると激しく痛い。トンボの幼虫(ヤゴ)ではない。
ヤラガス	ヤル	「やる」の俗語
ヤラレル	イジメラレル	いじめられる。「Aにヤラッタ(Aにいじめられた)」
ヤリナンケ	ヤリナオシ	やり直し
ヤル	イジメル	いじめる。「Aヤロゴド, ヤッチャエ(Aの奴のことをいじめてしまえ)」
ヤロ	ヤロウ	野郎。憎しみの心の時ばかりでなく, 親しみの心持ちの時にも使う。「このヤロ, 旨いゴド, ヤッタナ(この野郎はうまい事やったな)」
ヤンナル	イヤニナル	嫌になる
ヤンメ	ハヤリメ	はやり目, 流行性角結膜炎
ヤンメえ	ヤルマイ	やるまい。仕事を止める時などにも使う。「ハア, ヤンメえ(もうやめよう)」

ユ

※原本の中では、「ユ」のページでは発音記号の「j」を使って表記しています。(例:jギ[=ユギ])
それは、原著者の野口氏によると若柴言葉の「ユ」と標準語の「ユ」とでは、厳密に言うと発音が違うので、それを明らかにするためこのような表記にしたとのことです。
当ホームページでは、読みやすさを考えて、通常のカタカナで表記しています。

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
ユギ	ユキ	雪
ユゴガ	ユコガ	湯桶(ゆこが), 風呂桶
ユデ	ユデ	湯手(ゆで), 入浴用手拭い
ユツツオ	...	刈った稲や麦などを束ねるために, 数本の藁の穂の方を縷(な)って作った縄。*「結い草(ゆいそう)」の訛りか。
ユドノ	ユドノ	湯殿(ゆどの), 独立した風呂場の小屋。⇔ユバ
ユノシタヲモオス	フロノヒヲモス	(風呂を沸かすために)風呂の火を燃す。(=湯の下を燃す)
ユバ	ユバ	湯場(ゆば), 母屋などに併設した風呂場。⇔ユドノ
ユルツケエ	ユルイ	緩い(ゆるい)。
ユワシナベ	ユワシナベ	縁の遠い親戚。* 鰯(いわし[「ゆわし」ともいう])を煮た鍋はいつまでも鰯のにおいが少し残る, ということから。

ヨ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
------	---------	-----------

ヨエ	ユイ	結い(ゆい)。(農業などの)共同作業の一形式。例えば、A家の田植えにB家から2人行き、今度はB家の田植えにA家から2人行く、と言うような形。(2つの家で同じ人数を出して、互いに作業を手伝い合う)
ヨゴヘゲ	リュウノヒゲ	竜のひげ。蛇のひげ(ジャノヒゲ)の別称。細い葉の草。青い実がなる。土崩れ防止に植える。
ヨッカ	ヨリモ	よりも。「カゲツコロはAヨッカ、Bのホガ、速ガッペえヨ(かけっこはAよりもBの方が速いだろうよ)」
ヨッチャレ	ヨクナイ	良くない、不良品
ヨツパラ ヨデハラ	タラフク	鱈腹(たらふく)。さんざん、十分に、も同じ意味。「今日はヨツパラ、飲ンダッペ(今日はたらふく飲んだだろう)」
ヨドブシ ヨドブチ	ヨトボシ	「とぼし」は点火・燈し(ともし=とぼし)のこと。春先になって田に水が入ったら、夜にかがり火を燈して泥鰻(どじょう)を取りに行くこと。夜に火を燈す「夜とぼし」から。*また、水の中にいる泥鰻をヤスで打って取るころから、「よどぶち」が転訛したものとも考えられる。
ヨバラレル	ヨバレル	呼ばれる。「ヨバラツタラナ、すぐ返事スルモンダヨ(呼ばれたらすぐに返事をするものだよ)」*若柴言葉では、「ヨバレル」は招待される、ご馳走になる、の意味にも使う。
ヨバル	ヨブ	呼ぶ。昔の言葉「ヨバワル」が転じた。
ヨピテ	ヨドオシ	夜通し。「ヨピテ」は「夜一夜(よひとよ)」が転じた。
ヨレツポ	アマノジャク	天邪鬼(あまのじゃく)。わざと人の言に反し、片意地を通す人。

※赤字の部分は生涯学習課が追加しました。